

他者と協働して主体的によりよい表現を追求できる生徒の育成

—音楽表現を創意工夫するためのICTの活用を通して—

特別研修員 音楽 羽鳥 文仁（中学校教諭）

【生徒の実態】

- ・音楽表現を創意工夫できる生徒はいるが、その意見が周りの生徒に広がっていかない。
- ・正しい音程やリズムで歌える生徒が多い。

【教師の願い】

- ・他者と協働しながら主体的に音楽表現を創意工夫する機会を増やしたい。
- ・よりよい音楽表現を追求できるようになってほしい。

実践事例：音楽科・中1「曲想やパートの役割を生かして音楽表現を工夫しよう」【教材名「COSMOS」作詞・作曲 ミマス 混声三部合唱】

手立て①

意見を可視化した学び合い

ICT端末による意見の可視化



どのような歌い方がいいかな？

拡大

リズムが、ばらける

楽譜

楽譜

楽譜

可視化された意見
光がたくさんあるイメージ
でたくさんの声がある感じ

手立て②

録音・録画による振り返り

ICT端末による録音・録画



録音を聴いてみると思ったよりデクレシェンドができていないな。

グループ活動の様子

再録音

デクレシェンドが表現できるようになったね。

バランスが悪い気がするから、もう一回試してみよう。



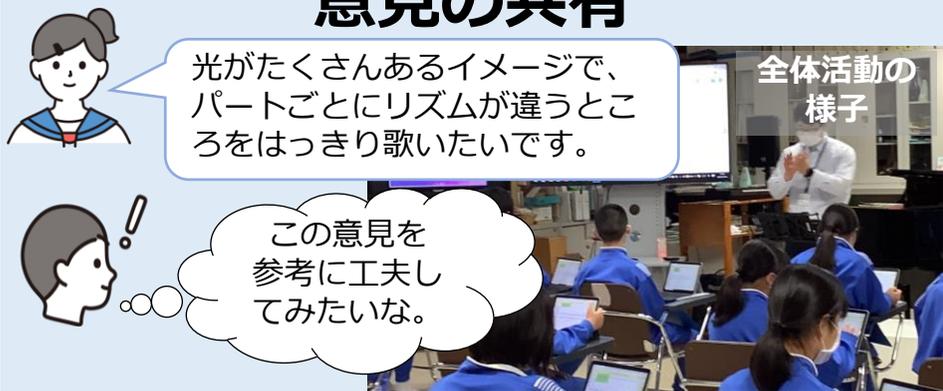
グループ活動の様子

リズムがばらけるところは光がたくさんあるイメージです。どう工夫したらいいかな？

はっきり歌うとリズムの違いが出て、光がたくさんある感じになるかな？

試してみよう。

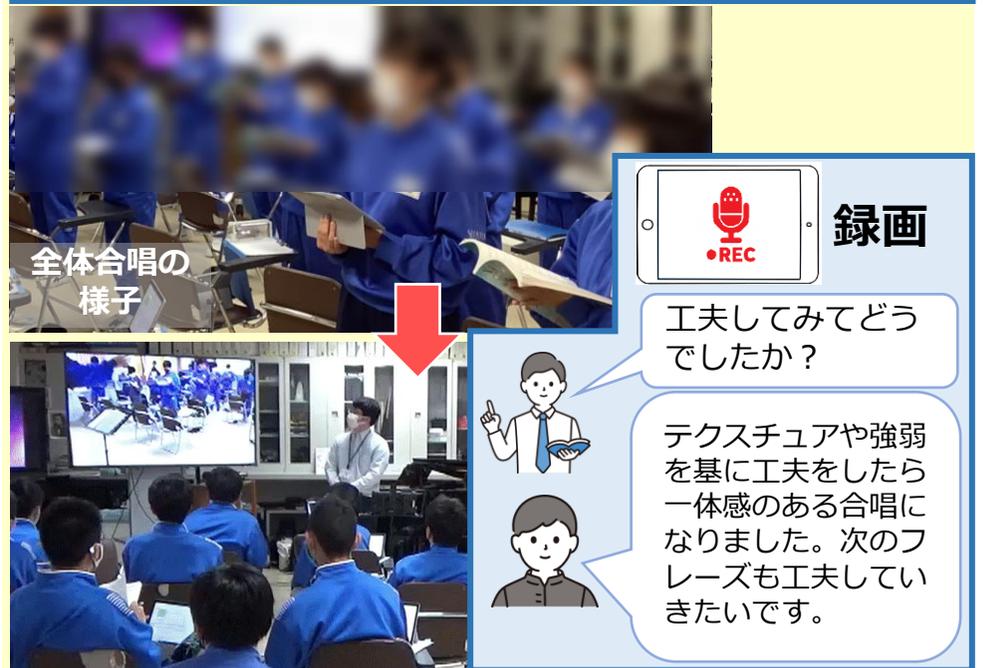
ICT端末による意見の共有



光がたくさんあるイメージで、パートごとにリズムが違うところをはっきり歌いたいです。

全体活動の様子

この意見を参考に工夫してみたいな。



全体合唱の様子

録画

工夫してみてどうでしたか？

テクスチャや強弱を基に工夫をしたら一体感のある合唱になりました。次のフレーズも工夫していきたいです。

手立て①から現れた姿

様々な意見に触れたことで、イメージを膨らませながら表現の工夫を考える姿が見られた。

手立て②から現れた姿

録音を聴き直すことで課題の再発見につながり、必要感をもってよりよい表現を追求する姿が見られた。

【成果】

- ・自分と他者の考えを比べながら、新しい視点をもって創意工夫している生徒の姿が見られた。（手立て①）
- ・教師が録画するだけでなく、生徒同士でも録画をしたことで、試した工夫をすぐに端末の録音・録画機能で確認しながら表現の工夫ができていた。（手立て②）

【課題】

- ・他者の意見を瞬時に見ることができ、自分の考えを広げやすくなるが、思考を深めていくためには「なぜそのように考えたのか」を問い掛けていく必要があると感じた。